

既存ダム等の効果 紀ノ川水系 大滝ダム

○紀の川水系大滝ダム上流域において、10月18日から23日にかけて、流域平均の総雨量が531.5mm、時間最大雨量が52mm（大台ヶ原雨量観測所^{おおだいがはら}）となり、ダムへの流入量が約2,000m³/s（大滝ダム管理開始以降第2位）を記録。

○大滝ダムでは、約1,500万m³の洪水を貯留し、大滝ダムの防災操作により、ダム下流の紀の川の水位を五條地点（五條市新町付近）^{ごじょう}で約0.9m^{ごじょう}、三谷地点（かつらぎ町三谷付近）^{みたに}では約0.5m低下させる効果があったと推定。

位置図

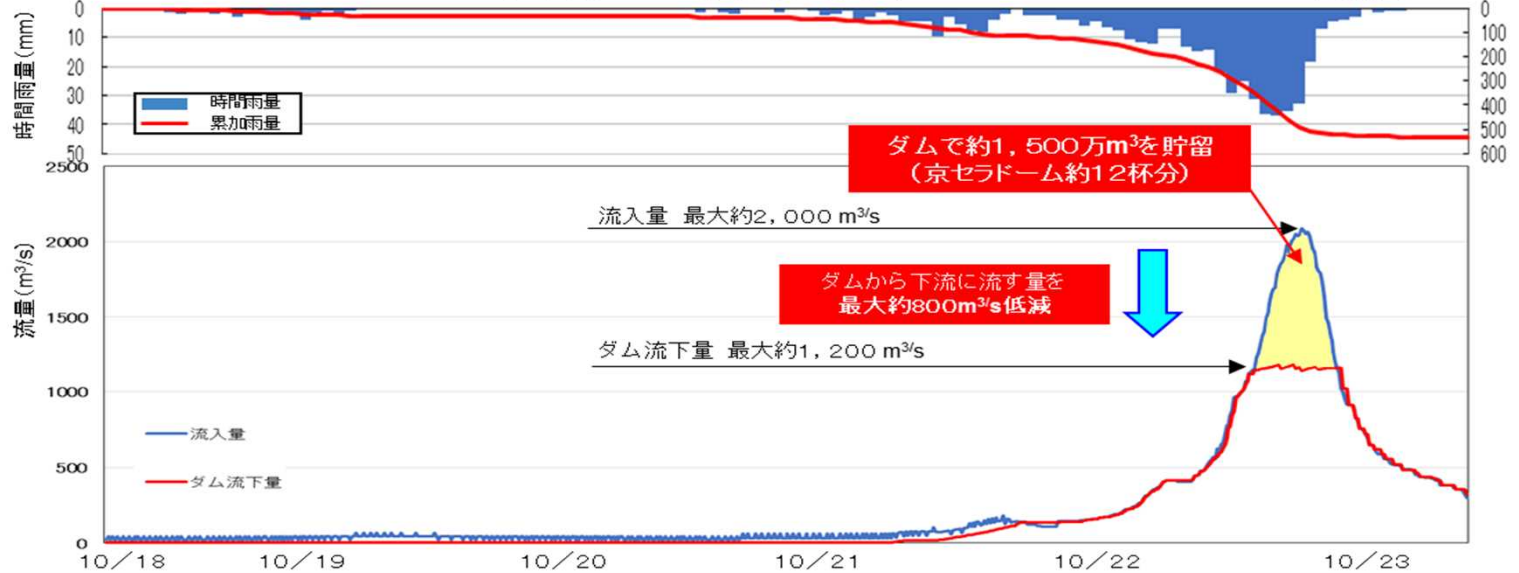


みたに 三谷地点 航空写真

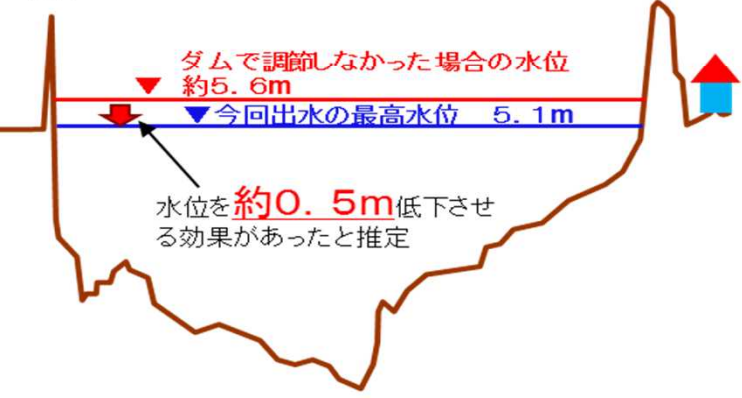


— 三谷水位観測所 断面位置

大滝ダムの防災操作図



みたに 三谷地点（大滝ダムより下流60km地点）



ごじょう 五條地点（大滝ダムより下流40km地点）



※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。